



平屋の南面の窓は土間サロンの地窓のみ。思い切り絞った一方で南東のブドウ畑に向けて開口を大きくした。土間サロンからつながるテラスは、BBQをしたり庭作業の合間にお茶を飲んだりと使い勝手が良い。(上)
二段下りのピットリビング。「リビングにゴロンとなりふと見上げると、真っ白な壁なんだけど、なんかカッコいいと思う」と奥様が話す。(下)

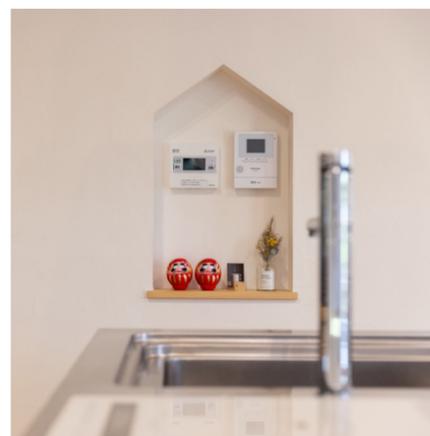


平屋のロフト部分は2人の娘さんの部屋。秘密基地のようで楽しい。(上)
室内干しもできるランドリールーム。スロップシンクは予洗いに便利。(下)

owner's voice

元々はこの場所にあった実家の離れをリフォームし、10年ほど暮らしており、不便はないものの、どこかアパートに住んでいるような感じがしていました。たまたまふらっと見に行った長野中央展示場の土間サロン。住む場所に困っていた訳ではありませんでしたが、夫婦共に気に入ってしまい、思い切って建替えを決意しました。

具体的なオーダーは家族みんなで料理ができるCUBEキッチンだけ。「2LDK、ダイニングテーブルやソファを置く」というようなよくある間取りは嫌だったので、「フツウの家、使い方が決まった家にしたくない」とだけ伝えてプロにお任せしました。担当スタッフはむしろそれを喜んでくれて様々な面白いプランを提案してくれました。家族が思い思いの場所に腰かけ、くつろぐことが出来る空間が気に入っています。広い土間サロンや二段下りのリビング空間も「使い方を決めていない」ので、それが余白のように感じ、自由に過ごせるのが楽しいです。唯一のオーダー、CUBEキッチンでは子供たちと色々な話をしながら料理したり、薪ストーブのオープンでパンを焼いたり…この家でおうち時間を満喫しています。



キッチン横の掘り込みニッチ棚は家のかたちとし遊び心を。背面棚にはお気に入りの小物がセンス良く並ぶ。

01

余白の家_平屋

中野市 T様邸



「使い方が決まったフツウの家にしたくない」。
家に余白があるからこそ豊かな暮らしが生まれる。
コンパクトな平屋でありながら
家族が日々、思い思いの場所でくつろぐことができる家。

竣工 2021年10月
敷地面積 316㎡ (96坪)
延床面積 84㎡ (25坪)
家族構成 夫婦・娘さん2人

